2015 池田龍雄展 我が心のメルヴェーユ





「宇宙は場に満たされており、 場の中を動いている。世界は場の 中にあり、人は場の中で生きてい る」。 "戦後アパンギャルド (前 衛芸術) の族手。として知られる 池田龍雄さん(86) 一伊万里市出 身、東京都在仕一は、"場"。や時 間など見えない何かを見ようとし ア絵を描き続けてきた。福岡市で







□福岡市中央区赤坂3 - 9 - 28の ロフティ赤坂2階のギャラリーモリ ター電話992 (716) 1032-で4月5 日まで《月曜休海》

福岡市で池田龍雄展



場の位相-G」(2014年、紙・アクリル・周

「我が心のメルヴェーユ(驚嘆) 北の眼・南の眼」と難し、池田 さんと親交のある香月川廊(東京) とギャラリーモリタ (福岡市) が 共同主催した。昨年末に北海道の 美術館でも展示しており、他田さ んは「北の人たちの目に触れたわ たしの分身たちが、南の人の目に どう映るのか、生みの親としては 大いなる楽しみである」という。

池田さんは戦後、岡本太郎や安 部公房らとアパンギャルド運動を 展開。特攻隊員だった体験を元に 一貫して反戦、反権力を主張し、 米軍の抵地反対闘争やビキニ環礁 水爆実験などを圏材にしたルボル タージュ的絵画を手掛けてきた。

1960年代の安保闘争に敗れてか らは、概念芸術に視線の対象を移 している。徒労のパフォーマンス 「梵天の塔」や宇宙と生命の傑奥 を描いた「ブラフマン」シリーズ

「場の位相」シリーズ展開

長上にある「場の位相」シリーズ る。 圏線は穴となったり、波とな を世に送り出してきた。他田さん は場の概念について「場とは磁場 であり電場であり重力場であり、 あるいはヒックス場であるかもし れない」と語る。

不安定な磁場を思わせる「場の 位相-G」は、連なり合う圏線に 青や赤、黄が視覚に向かって攻め 立てている。「同一A」は、乾い た大地に、磁場を伴った嵐のよう なものが舞い降りる。「同一F」 は、マクロ的には「彗星」のよう に見えるが、ミクロの視点だと精 子のようにも見える。

いずれの作品も時間や空間、生 命など見えないものをテーマに表 現。和紙にアクリルや墨で描き、 概吹きで水を拭きかけ大胆ににじ ませる技法で偶然性を生かしてい

り溜となって場を表現。よじれ、 曲がり、広がり、自由隔速な動き を見せている。

ほかにも、ビルの窓を抽象的に 捉えた「窓」や、なぞの生命体の ような「優しく」をはじめ、商に 入れた立体オブジェなど独創的な 作品が並んでいる。

他田さんは伊万里市二里生ま れ。1948年に多摩造形美術専門学 校 (現・多摩美術大) に入学。54 年に読売アンデバンダンで脚光を 浴びる。「NON」や「制作者態 談会」などさまざまな芸術グルー プに加わり、多くの作品を制作し ている。 (辦生雄一郎)

▶電子新聞に 複数写真



★本紙HPでも公開。 「Get」の別コマ写真を随時掲載 http://nishinippon.co.jp/nlp/entame/

破壊と沈静が一つに

新作ドローイング展

池田龍雄さん



「場の位相 G」2014年

戦後日本の前衛芸術をけん引した池田龍雄さん(86)=佐賀県伊万里市出身、東京在住=の「我が心のメルヴェーユ」と題したドローイング展が、14日から4月5日まで福岡市中央区赤坂3丁目のギャラリーモリタである。2011年に福岡県立美術館などで開かれた大回顧展以降の、新作を中心に約30点を展示する。

驚異を意味するメルヴェーユのフランス語の通り、池田さんの絵には、破壊のエネルギーと沈静のエネルギーが一つの画面に同時進行する。

満17歳の誕生日に特攻隊員として敗戦を迎

え、1950年代に、戦後社会の愚かさや 人間の醜悪さを告発する「ルポルター ジュ絵画」で評価を得た池田さんは、 次第に関心を宇宙や内面に移して表現 してきた。近年は「世界は場の中にあ

On Gallery

4==1



「場の位相-A」2014年

り、人は場の中で生きている」 「場は、穴となり波となり渦 となり線となり、捩(よじ) れ、曲がり、走り、広がって いる」として「場の位相」シ リーズに取り組み、今回は紙 に描いた作品を並べる。

池田さんと親交のある東京 の香月画廊とギャラリーモリ タの共同主催。画廊主2人が 画廊を始めて25年になるのを 記念して企画した。オブジェ も6点展示する。

15日午後4時から、池田さんのトーク「わたしにとって、 絵とは何か」がある (ドリンク付き2000円。要予約)。月曜休郎。午後1時から同8時まで。モリタ=092(716)1032。 けない」と締めくくった。

(南陽子)

る前(の時代)に、再び近づいている。芸術の力 くしかない」。聴衆には若者も多く「戦争をす

でとどめられるか。不安だが、やらなければい

、今の時代への不安 への思い

は何なのか。なぜ描くのか。その問いはなぜ人

ずってゆく芸術と

は生きているのか、と同じで答えは出ない。描

画家・池田龍雄さん、熱く語る

たしにとって、絵とは何か」と題し講演した= 身、東京在住=が15日、福岡市の個展会場で「わ

ん引した池田龍雄さん(86)=佐賀県伊万里市出

戦後日本のアバンギャルド(前衛芸術)をけ

となり、敗戦後は教職追放にあった池田さんは なかで新しい芸術を打ち立てようとする若い世 美術学校の旧態依然ぶりに失望したのち、岡本 太郎や勅使河原宏、野間宏、安部公房ら、社会の 「自由に生きたい」と芸術を志した。上京し、 14歳で海軍の飛行予科練に志願して特攻隊員 代と、分野を超え

なしのエネルギー をこのように引き さんは「では人間 と鮮明な記憶力 後」を語った池田 近接していた「戦 で、芸術が政治と て出会っていく。 2時間立ちっぱ

ヤラリーモリタ=092 (716) 1032 新作を中心にドローイングなど約30点を展示。 4月5日まで、福岡市中央区赤坂3丁目のギ ◇「池田龍雄展 我が心のメルヴェーユ」は